

社会と関わり、感謝され



仕事として箱折り作業に精を出す入所者ら＝越前市蓬萊町のサンライフ小野谷

仕事受注で 高齢者元気

越前市の老人ホームが、商品パッケージの箱折り作業を受注し、入居者の生きがいにつなげている。作業量に応じて報酬が支払われ、孫や子ども食堂にプレゼントを贈る人もいる。新型コロナウイルスの影響でレクリエーションや家族との面会が制限される中、社会と関わり、感謝される経験が元気の源になっている。(高島健)

越前市の老人ホーム

箱折り作業3年目

同市蓬萊町の「サンライフ小野谷」では平日午後2時、十数人の入居者が食堂に続々と「出勤」して来る。黙々と厚紙を折って、箱を一つ一つ仕上げている。作業は強制ではなく、意欲のある人が自由に参加する。パーキンソン病を

患う堀幸子さん(82)は「じっと部屋にいても退屈。仕事していると手先の動きがよくなる」と話す。

同施設では、焼き肉店を経営していた女性がたれの作り方を周囲に教えたり、話し好きの男性が月1回スピーチしたりと、入居者が「役割」を得て元気を保った過去の事例を重視。特技がない人にも役割をつくれなかと模索し、2020年から市内の障害者施設が受注している箱折り作業の一部を担っている。

入居者が作業した日数や仕上げた箱の数を記録し、報酬を3カ月1回支払っている。金額は多い人で数千円。自分の好きなものを買ったり、プレゼントした孫らから手紙が届いたりすると、モチベーションが上がるという。

同施設では例年、老衰などで年間7人前後の入居者が亡くなるが、昨年度は3倍近くに増えた。コロナ感染による死者はいなかったが、家族との面会や施設の外に出かける機会が減り、急速に元気がなくなる入居者は少なくないという。

箱折り作業を担当する施設職員佐藤辰明さん(58)は、販売業の管理職を経験し、55歳で介護職に転職した。「報酬額よりも、自分がだれかの役に立っているという気持ちになれることが最も重要のようだ。長く販売の現場に勤めていたが、こんなに純粹に仕事に打ち込む人は見たことがない」と話している。

新米って楽しい！ グルメや体験満喫

福井、趣向凝らし秋祭り
福井市の新米商店街を歩き、各店が趣向を凝らした



企画を楽しむイベントが1日、同商店街の新米テラスをメイン会場に行われた。親子連れらが多彩なグルメを味わい、スリッパ飛ばし

大会やボールすくいなどに挑戦した写真。

中心市街地のにぎわいづくりに向け、一般社団法人エキマエモールなどが展開する店舗参加型企画「まちいろストリート」の一環。JR福井駅西口周辺の魅力的な店舗を多くの人に知ってもらおうと、秋祭りとして初めて企画した。約30店がさまざまな企画

福井地区中学

軟式野球

第55回福井地区中学校秋季新人総合競技大会(福井新聞社後援)は最終日の2日、3競技を行い、軟式野球は決勝で森田が上志比を下し、初優勝を果たした。(右沢善郎)

笑顔の大輪3千発

日野川大花火、ライブ配信も



日野川沿いの福井市内4地区有志による「日野川大花火」が1日夜、河川敷で行われた。1尺玉を含む約

3千発が秋の夜空を鮮やかに彩り、集まった住民らが歓声を上げ楽しんだ。社南、社西、社北、清水北

催 しました。子どもの小さな

か、英語と音楽 体操を組

わいづくりも盛り込んだ。